

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立折尾高等学校

自己評価						
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針	商業に関する学科と家庭に関する学科の相乗効果により、広い視野と豊かな人間性を育むことで、社会で活躍できる人材を育成する					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
昨年度は「学びあう」をキーワードに学校での学びを大切に教育活動を進めた。文房具としてのICT活用や3観点別評価の一新により評価と指導の一体化を目指した「主体的・対話的で深い学び」の実践や、教科等横断的な学びに取り組んだ。商業に関する学科と家庭に関する学科を有する本校の強みを生かしたオリジナル商品が商標登録を得たことは大きな成果である。特別活動・部活動や地域連携等では「学びあう」ことによる豊かな人間性や社会貢献の意思の育成を重視した。体育大会は学科を越えたブロック編成を導入し、文化祭や修学旅行は感染症対策を講じ工夫を凝らしながら実施し、校則等については目指す生徒像に照らし時代の変化に応じた見直しを行った。また、進路決定のその先を見通した「学びあう」キャリア教育により、各々が掲げた高い目標に果敢に挑戦できた。PTA・同窓会や地域と共に生徒の成長を喜び合う雰囲気醸成し「チーム折尾」としての学校力の高まりを感じる。学校紹介動画のリニューアル、生徒発信Instagram等の広報活動強化により、中学生やその保護者に「選ばれる学校」として認知されつつある。 今後は、多様な人々と協働しながら課題解決に向けて新たな価値の創造に挑戦する生徒の育成を目指し、中高大連携に着手する等「おりこうブランド」の発信を一層強化していく。	学びあい高めあう「主体的・対話的で深い学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを推進し、観点別評価を充実させ、授業改善を図る。 ・文房具としてのICTを活用した新たな学びを深化させ、校内外の仲間と学びあい高めあう高度な資格取得や競技会への挑戦を促す。 ・様々な体験活動や多様な他者と協働した探究的な学びの機会を設定し、実社会での課題解決に向けた教科等横断的な学びを推進する。 				
	学びあい高めあう豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動において、校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした人格形成を旨とする。 ・特別活動・部活動や地域連携等とおして、互いの良さや可能性を發揮できる人権尊重の精神の涵養を図り、社会貢献の意思を育む。 ・安心・安全な教育環境の整備に努め、自分も他の人も価値ある存在として尊重し、互いの命を守る意識を高める。 				
	学びあい高めあうキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「おりこう手帳」や「キャリア・パスポート」を活用し自己の能力を最大限に引き出すことにより、進路決定のその先を見通したキャリア支援を行う。 ・学ぶことと自己の将来のつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けることができるキャリア教育を実践する。 ・大学や企業、地域社会や同窓会等との連携を強化し、各学科の専門性を生かした高い目標への挑戦を支援し、失敗しても挑み続ける心を育てる。 				
	学びあい高めあう学校力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な校務運営のためにOJT及び業務のICT化と不祥事防止に努め、学びあい高めあう教職員集団として組織力を強化する。 ・中高大連携等により、各学科の生徒が学びあい高めあう本校の強みを生かした「おりこうブランド」の発信を強化し、安定的な志願者数を確保する。 ・PTAや同窓会及び地域社会との連携を強化し、生徒の成長と共に学びあう「チーム折尾」としての学校力を高め、地域に愛される学校を目指す。 				
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
	教務部	教務課	「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進	本校の強みを生かした「おりこうブランド」を明示した教育課程の編成を進め、周知を図る。		
			「指導と評価の一体化」の充実	「主体的に学習に取り組む態度」についての評価が「生徒の変容を見取る」ことができるものとなるよう、審査問題や評価の観点の改善を進める。		
			「主体的・対話的で深い学び」の充実	体験活動や他者と協働した探究的な学び、課題解決につながる教科等横断的な学びを推進する。		
	情報広報課	教育の情報化の推進	ICT活用のための環境整備及び文房具としてのICTを活用した新たな学びの深化を図る。			
		「おりこうブランド」の発信強化	本校関係者全員が「おりこうブランド」発信者としての自覚を持ち、本校の魅力をHPやSNS、メディア等へ発信する。			
		広報活動の充実	保護者説明会、体験入学、中学生説明会等に中高大連携を取り入れる等の工夫を加え、本校の魅力を中学生や地域に発信し周知する。			
	生徒育成部	生徒指導課	校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした人格形成	全職員が統一した指導観のもと、挨拶励行等の成長を促す指導や予防的指導を行い、問題行動等の未然防止に努め、おりこうブランド発信者としての自覚を育てる。		
人間尊重の精神並びに社会貢献の意思の育成			学校行事、生徒会活動、各種委員会活動、部活動における各々の役割を明確にし、リーダーシップ、フォロワーシップを意識した行動を促す。			
自他ともに価値ある存在として互いの良さを尊重し、命を守る意識の高揚			学年、修学課、人権教育推進委員会と連携し、いじめの未然防止・早期発見に努める。			
保健厚生課		生涯を通じた健康の保持増進の態度の育成	生徒健康診断を適切に実施し、心身の健康の保持増進の指導・支援に繋げる。			
		個に応じた指導・支援体制の強化	スクールカウンセラーや人権教育推進委員会などの関係教職員、関係組織と連携を図り、情報共有を行い、個にあった指導・支援を行う。			
		安心安全な教育環境の整備	感染症対策の実施、清掃の徹底、防災の意識を高める保健委員会、厚生委員会、整美委員会の活動を行う。			
修学課		生徒・家庭に対する、きめ細やかな相談体制の確立と、支援体制の強化	誰もが相談しやすい体制を整え、周知を図る。修学課を中心に、人権委員会・ケース会議で個々の生徒の情報共有を密に行い、家庭や地域と連携しながら、個に応じたきめ細やかな支援を行う。			
		教職員の人権に関する知識や意欲・態度・実践力の育成	校内研修の改善・充実を図るとともに、校外研修での成果を全職員で共有し、教職員の人権感覚の向上と、人権学習教材の効果的な活用に結びつける。			
		差別を見抜く感性と、自他の人権を守ろうとする意志と実践力を育成する人権教育の推進	自分も他の人も価値ある存在として尊重し、互いの命を守る意識を高めるために、人権教育特設授業の充実を図るとともに、全教科・全領域での人権尊重の視点に立った教育活動を実践する。			
キャリア教育部	進路決定のその先を見通したキャリア支援	「おりこう手帳」や「キャリア・パスポート」の有効活用と、進路集会やガイダンスの充実、生徒や保護者との面談に伴う適切な情報提供を行う。				
	社会的・職業的自立に向けた資質・能力の習得	社会人講話や職業別ガイダンス、工場見学やインターンシップなど、社会とのつながりを意識したり体験できる行事を実践する。				
	専門性を生かした高い目標に挑戦させる支援	各学科や学年と連携して体験的活動や資格取得を促したり、小論文指導や進路保障などキャリア支援に係る職員研修会を実施する。				

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

研修部	研修図書課	体験的、探求的、教科等横断的な学びを目指す研修体制の構築	ICTの活用、教科等横断的な学び、観点別評価にかかる効果的な研修会を工夫すると共に、学習活動に生かす図書館運営を推進する。						
		生徒がICTを効果的に活用する授業実践についての情報共有	中学校との交流研修や他校の公開授業研修等に積極的に参加し、その実践内容を本校職員に還元する。						
		学びあい高めあう教職員集団としての組織力の強化	授業改善と教科部会の活性化を図るため、公開授業週間に全職員でパフォーマンス課題・評価、教科等横断的な学びの実践を行う。						
	庶務課	学校行事・式典などの円滑な運営	前年度の職員の意見や反省を生かし、各分掌と連携を図りながら全職員が共通認識のもと円滑な運営となるよう支援に努める。創立70周年に向けた取り組みについて準備を進めていく。						
年間・月別行事の連絡徹底		月別行事予定は1か月前までに職員配付とクラス掲示を行う。またHPIにも掲載、更新を行い、広報活動の一助となるように努める。							
PTA活動の充実		各分掌と調整を図って、PTAの連携強化に努めることで「チーム折尾」としての学校力を高める。							
第一学年	基本的な生活習慣の確立	おりこう手帳を活用して見通しを持ったスケジュール管理を促しながら、基本的な生活習慣を身に付けるよう意識付けをする。							
	基礎学力の定着	定期考査や検定試験に向けて、目標設定と振り返りを行い計画的に学習に取り組ませるとともに、ICTの活用や家庭学習を促進する。							
	豊かな人間性の育成	特別活動や学校行事等を通して、互いの良さや可能性を發揮させたり新たなことに挑戦する心を育てる場面を設定する。							
第二学年	主体的な活動の推進	特色ある学科の取組とより専門性を高めた教育活動を通じ、主体的に学ぶ姿勢を定着させる。							
	協働する力の育成	インターンシップや修学旅行などの学校行事を通じ、多様な人々との体験活動で得た学びを将来に活かすよう導く。							
	高度な資格取得へのチャレンジ	高度な資格取得をはじめ、クロムブック (ICT) 等の活用による新たな学びへの積極的な姿勢を育てる。							
第三学年	最上級生としての自覚ある行動の推進	各クラスのリーダーを中心に、学校行事や日頃の学校生活を通して下級生の模範となる行動を促す。							
	社会に通用する人材の育成	校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした人間性を育成し、ルールやマナーを遵守する規範意識を持たせる。							
	希望進路の実現	生徒との対話を通して、目標を明確にし失敗を恐れず希望進路へチャレンジさせる。							
商業科	主体的・対話的で深い学びの実践	ICTを活用した効果的な学習指導を推進し、指導と評価の一体化をすすめ、さらなる教科の指導方法・指導内容の工夫改善に努める。							
	専門的職業人の育成	進路に生かせる高度な資格取得を推奨するとともに、体験活動等とおしたビジネス教育の深化を図る。							
	学科間の連携強化	課題研究や学校行事等を中心に家庭科との連携を強化する。							
家庭科	新たな学びの深化	観点別評価を意識した授業改善を図り、教科内でICTの活用に関する研修を行うなど指導方法や指導内容の工夫改善に努める。							
	キャリア教育の実践	体験活動や他者との協働を通して、社会的・職業的な自立のための資質能力を身につけさせ、先を見通したキャリア支援を行う。							
	魅力ある学科の発信	中高大連携や企業・地域社会との連携を強化し、特色ある学科の取組や情報をさまざまな形態で迅速に発信していく。							
事務部	予算の有効活用と迅速な執行	限られた予算で最大限の効果・成果を出すため予算の有効活用を行う。							
	光熱水費など管理費の節減	電気代金の高騰により分権予算への圧迫が大きいため、無駄な電気は使用しない一層の節減に努める。							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・
- ・
- ・
- ・

評価項目以外のものに関する意見